

# コンテンツ、コンテンツ、コンテ ンツ

筑波大学大学院図書館情報メディア研究科教授  
文部科学省研究振興局 学術調査官  
逸村裕<hits@slis.tsukuba.ac.jp>

着眼大局  
着手小局

# 質問

- 1.皆さんの図書館の売りモノは何ですか？
- 2.皆さんの大学の売りモノは何ですか？
- 3.機関リポジトリは何の為に構築するのですか？
- 4.皆さんの考えるコンテンツとは何ですか？

**POLONIUS**      What do you read, my lord?  
**HAMLET**        Words, words, words.  
**POLONIUS**      What is the matter, my lord?  
**HAMLET**        Between who?  
**POLONIUS**      I mean, the matter that you read, my lord.

Shakespeare, William. *Hamlet*.

大学図書館員10年

社会人大学院生 7年(2大学)

教員16年10月(3大学)

図書館管理職 10年3月(2大学)

役人4年10月

私立大学21年9月(2大学)

国立大学 5年 1月(2大学)

1. 皆さんの図書館の  
売りモノは何ですか？

2. 皆さんの大学の売りモノ  
は何ですか？

3. 機関リポジトリは何の為に構築するのですか？



4. 皆さんの考える

コンテンツ

とは何ですか？

## Wikipedia 機関リポジトリ

機関リポジトリ(きかんりポジトリ)とは、研究機関がその知的生産物を電子的形態で集積し保存・公開するために設置する電子アーカイブシステムである。ここでいう知的生産物としては、大学にあっては、学術雑誌掲載論文(査読を経していない状態の版(プレプリント)や査読を経た状態の版(ポストプリント)のいずれをも含む)や電子化された学位論文、紀要などを指すほか、日常的な教育・研究活動の中で生み出される文書、講義ノート、教材等も含まれる。

# Wikipedia 機関リポジトリ

研究機関が機関リポジトリを設置する主要な目的としては次のふたつが挙げられる。

- 機関の研究成果を自主的に保存・公開することにより、オープン・アクセス化に寄与すること。
- 出版されないものや失われやすいもの（灰色文献。例えば学位論文や研究報告書類）を確保し保存していくこと。

機関リポジトリのアイディアはふたつの源流を持つ。そのひとつは、電子アーカイブシステムの相互運用の議論に基づくものであり、これはオープン・アーカイブス・イニシアチブ(OAI)とその「メタ データ収集のためのOAIプロトコル」(OAI-PMH)の活動、さらには、世界規模の分野特化型プレプリント・サーバの出現からオープン・アクセス思潮へと至る流れが背景となっている。もうひとつは、コレクション構築、分類整理、供用、長期保存といった図書館の伝統的機能を電子的に引き継ぐ電子図書館システムにおけるコレクション構築、分類整理、供用、電子保存の取り組みである。

# Wikipedia      Institutional repository

An **Institutional Repository** is an online locus for collecting and preserving -- in [digital](#) form -- the [intellectual](#) output of an [institution](#), particularly a [research institution](#).

For a [university](#), this would include materials such as [research journal](#) articles (before ([preprints](#)) and after ([postprints](#)) undergoing [peer review](#), and digital versions of [theses](#) and [dissertations](#), but it might also include other [digital assets](#) generated by normal academic life, such as administrative documents, course notes, or learning objects.

The two main objectives for having an institutional repository are:

- to provide [open access](#) to institutional research output by [self-archiving](#) it;
- to store and preserve other institutional digital assets, including unpublished or otherwise easily lost ("grey") literature (e.g., theses or technical reports).

The origin of the notion of an "institutional repository" [IR] are twofold:

IRs are partly linked to the notion of digital [interoperability](#), which is in turn linked to the [Open Archives Initiative](#) (OAI) and its [Open Archives Initiative Protocol for Metadata Harvesting](#) (OAI-PMH). The OAI in turn had its [roots](#) in the notion of a "[Universal Preprint Service](#)," since superseded by the [open access](#) movement.

IRs are partly linked to the notion of a [digital library](#) -- i.e., collecting, housing, classifying, cataloguing, curating, preserving, and providing access to [digital](#) content, analogous with the library's conventional function of collecting, housing classifying, curating, preserving and providing access to [analog](#) content

# 機関リポジトリの認知

Yahoo JAPAN

各種資料と情報源 >

学術機関リポジトリ

14大学の機関リポジトリが掲載

# 大学のコンテンツ

学術情報

図書

論文

data

教育学習関連情報

研究者情報

文化・生態情報(キャンパス生活等)

知的財産情報

国際交流情報

# 大学のコンテンツ

学術情報

図書

**論文**(論文、学位論文、報告書、紀要、非公開…)

data

教育学習関連情報

研究者情報

文化・生態情報(キャンパス生活等)

知的財産情報

国際交流情報

# 大学のコンテンツ

学術情報

図書

論文

data (e-Science, Computational science, Data-centric science)

教育学習関連情報

研究者情報

文化・生態情報(キャンパス生活等)

知的財産情報

国際交流情報



# 大学のコンテンツ

## 学術情報

図書

論文

data

教育学習関連情報(教材、シラバス、カリキュラム・・・OCW)

## 研究者情報

文化・生態情報(キャンパス生活等)

知的財産情報

国際交流情報

# 大学のコンテンツ

## 学術情報

図書

論文

data

## 教育学習関連情報

## 研究者情報

## 文化・生態情報(キャンパス生活等)

## 知的財産情報

## 国際交流情報

**デジタルコンテンツ＋メタデータ**

# コンテンツを考える

大学の財産は「知」とそれを生み出す構成員  
「知」を生成する個々の構成員は、「入って出ていく」というフロー

教育・研究活動は動的に変化する

「知」には永続性がある

「知」と構成員を、どのようにアーカイブし、どのように発信するか、は持続可能な活動を行う際のポイントである

# 大学図書館の歴史展開

学術雑誌総合目録等の活動

図書館近代化

1960代

1970-1980前半

機械化 試行錯誤からNACSISへ

私学助成強化

オンライン情報検索普及

新図書館建設ブーム

JOIS、DIALOG、日経テレコン...

1985-

NACSISを中心とした

図書館パッケージシステム普及

図書館ネットワーク構築(NASCIS-ILL)

CD-ROM

1993-

インターネット、電子図書館

1999-

電子ジャーナル

オープンアクセス、機関リポジトリ...

雑誌危機シリアルズ・クライシス(雑誌価格高騰)

# 学術情報政策と大学図書館の流れ

## 1970-1990年代の情報政策と大学図書館

- (1)一次情報の収集整備(外国雑誌センター)
- (2)情報検索システムの整備
- (3)総合目録とILL体制の整備
- (4)日本独自のDB/電子図書館整備

1980

学術審議会「今後における学術情報システムの在り方について」答申

## その中核としての学術情報センター構想

1986 学術情報センター(NACSIS)



2000 国立情報学研究所(NII)

NACSIS-CAT、ILL、Webcat

インターネット

電子図書館

電子ジャーナル

オープンアクセス運動

機関リポジトリ

2002 科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会 情報科学技術委員会デジタル研究情報基盤ワーキング・グループ  
「学術情報の流通基盤の充実について(審議のまとめ)」

2003 文部科学省研究振興局情報課『学術情報発信に向けた大学図書館機能の改善について(報告書)』

2006科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会  
学術情報基盤の今後の在り方について(報告)

## 2002審議のまとめ

科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会 情報科学技術委員会デジタル研究情報基盤ワーキング・グループ.

「学術情報の流通基盤の充実について(審議のまとめ)」. 平成14年3月12日.

# 2002内容

学術形態が歴史的な変革を遂げている  
研究情報の体系的かつ高度な流通体制の整備構  
築が喫緊の課題  
学術情報の収集方策  
研究成果の国際的な発信強化

機関リポジトリという語こそ使っていないが

大学等から発信される様々な学術情報が簡便に利用できるためには、総合的な情報の発信窓口（ポータル機能）を設置し、統一的な規約によって情報を発信する必要がある。そのために、大学図書館が中心となって... 情報発信のためのシステムの設計・構築を行う必要がある



もうひとつ高等教育政策

# 我が国の高等教育の将来像（答申） 2005年1月28日 中央教育審議会

## 21世紀は「知識基盤社会」(knowledge-based society)

大学が学部学科や研究科といった組織本位の発想を改め、学位を与えるのにふさわしい体系的な教育課程をつくるよう促す。

2020年頃までを想定した中長期的な方向性を示した。

大学は「教育の質を重視」すべき。

### 重点政策

- ①教育課程改善、
- ②教養教育、大学院教育の充実、
- ③大学同士の競争が激化する中で各校が 経営改善に努める、
- ④世界トップクラスの大学院を形成、
- ⑤「卒業が簡単な大学」から脱却、「出口管理」強化

# 我が国の高等教育の将来像（答申） 2005年1月28日 中央教育審議会

## 21世紀は「知識基盤社会」(knowledge-based society)

大学が学部学科や研究科といった組織本位の発想を改め、学位を与えるのにふさわしい体系的な教育課程をつくるよう促す。

2020年頃までを想定した中長期的な方向性を示した。

大学は「教育の質を重視」すべき。

### 重点政策

- ①教育課程改善、
- ②教養教育、大学院教育の充実、
- ③大学同士の競争が激化する中で各校が 経営改善に努める、
- ④世界トップクラスの大学院を形成、
- ⑤「卒業が簡単な大学」から脱却、「出口管理」強化

## 大学の7つの機能

- ① 世界的研究・教育拠点
- ② 高度専門職業人養成
- ③ 幅広い職業人養成
- ④ 総合的教養教育
- ⑤ 特定の専門分野(芸術や体育等)の教育研究
- ⑥ 地域の生涯学習機会の拠点
- ⑦ 社会貢献(地域貢献・産学官連携等)

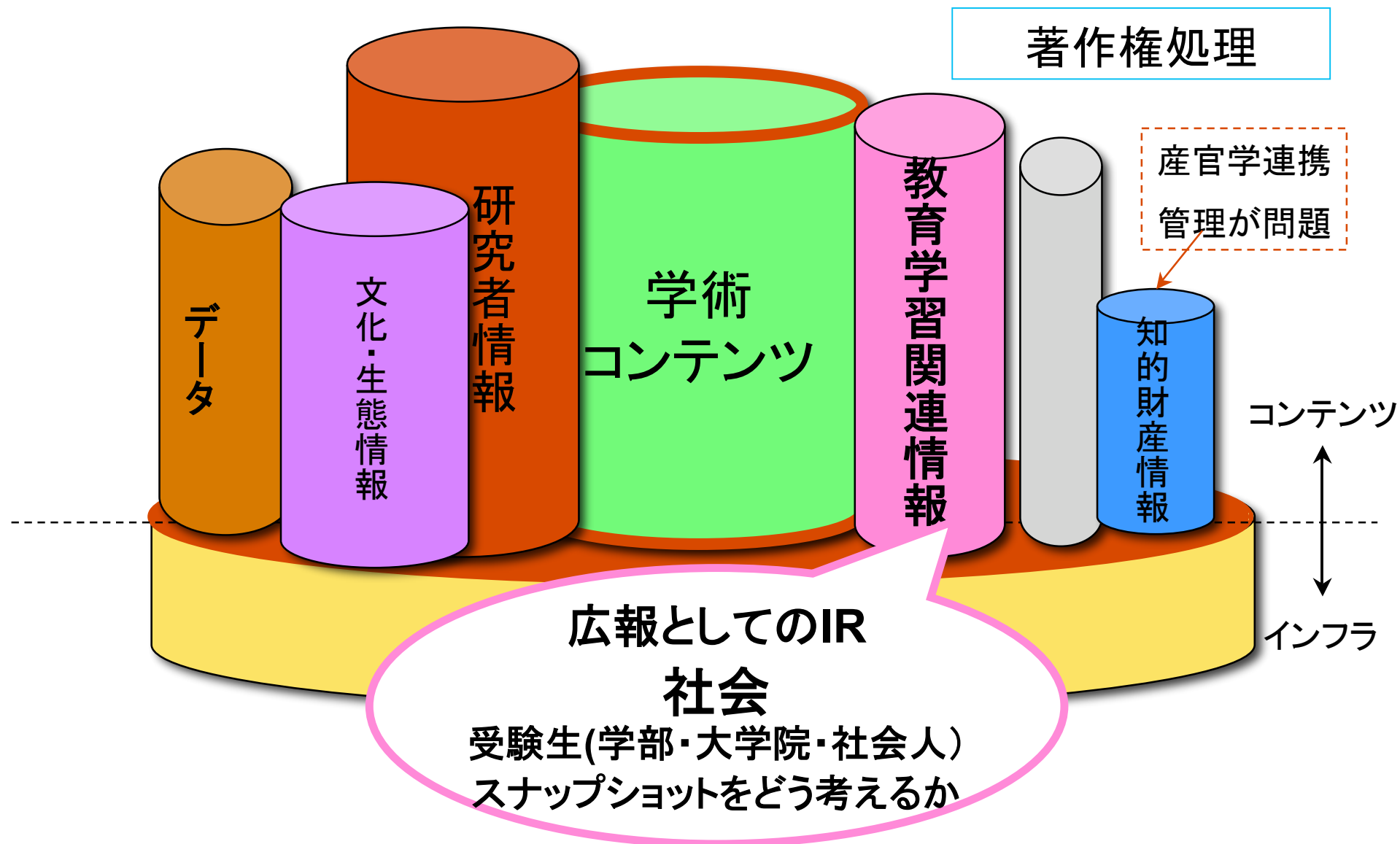
各 大学は、上記7つの機能を併有するが、各大学ごとに保有する機能や比重の置き方は異なる。その比重の置き方が大学の個性となり、各大学は緩やかに機能別に 分化していくことを求めている。競争的資金の配分などを通じ、国公私それぞれ特色化や役割分担を各大学は、自ら戦略的に選択していくことが求められる

## 大学の7つの機能

- ① 世界的研究・教育拠点
- ② 高度専門職業人養成
- ③ 幅広い職業人養成
- ④ 総合的教養教育
- ⑤ 特定の専門分野(芸術や体育等)の教育研究
- ⑥ 地域の生涯学習機会の拠点
- ⑦ 社会貢献(地域貢献・産学官連携等)

各 大学は、上記7つの機能を併有するが、各大学ごとに保有する機能や比重の置き方は異なる。その比重の置き方が大学の個性となり、各大学は緩やかに機能別に 分化していくことを求めている。競争的資金の配分などを通じ、国公私それぞれ特色化や役割分担を各大学は、**自ら戦略的に選択**していくことが求められる

# 機関リポジトリの展開



科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会  
学術情報基盤作業部会2006 大学図書館WG

「学術情報基盤の今後の在り方について（報告）」

今後、我が国が知的財産立国を目指すためには、知の創造と活用を図ることが重要であり、我が国の研究資源の多くを有する大学にあっては、研究成果等を積極的に発信し、社会に還元することが強く求められている。

大学は我が国の多くの研究資源を有する機関であり、その研究成果等を積極的に発信することは学内の教育研究活動を活性化させるだけでなく、我が国の学術情報の円滑な流通や社会貢献の観点からも重要である。

これまでも、大学図書館は学位論文や研究紀要等の学内で生産された学術情報を収集、組織化と提供を行ってきたところであるが、学術情報の収集力の強化はもちろんのこと、学内で生産された学術情報の組織化と発信力をより強化することが必要である。

特に、現在、大学内の研究者・教員が生産する研究成果、教育用資料等が最初から電子的形態を持つことが一般化しつつある中で、学内で電子的に生産される研究成果、過去の資料を電子化した資料、電子的教材などを、大学図書館等が中心となり蓄積保存し、メタデータを付すことによってインターネットを通じて利用者の便に広く供する「**機関リポジトリ**」への取組みが、教育研究活動を一層推進し、大学からの情報発信を強化するための方法として、世界的規模で進みつつある。

我が国においても、千葉大学、早稲田大学、北海道大学等で構築の試みが開始されており、大学からの情報発信力の強化や、大学の社会に対する説明責任の履行の観点から、またオープンアクセスへの対応という観点からも、有用な手法であると考えられる。

また、各大学の教育研究活動の活性化に資するため、さらに、我が国の学術情報の流通の促進を図るためにも、各大学は、学協会との連携を図りつつ、機関リポジトリに積極的に取り組む必要がある。その場合、大学図書館は機関リポジトリの構築・運用に中心的な役割を果たすことが期待される。

文部科学省においては、国立情報学研究所が行う**機関リポジトリ**構築・連携支援事業などを通じて、そのような取組みの支援を行うことが考えられる。

なお、学術論文等の著作権は、出版者が保持している例が多いが、我が国の学術出版においては、必ずしも権利関係の整理が明確になっていない例も多く、取扱いには十分留意する必要がある。また、研究者自らのアーカイブ作成にはインセンティブが不足しているとの意見もあり、機関リポジトリへの理解の増進と具体的な推進への取組みの工夫が必要である。



科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会  
学術情報基盤作業部会 2006 学術情報発信WG

「学術情報基盤の今後の在り方について（報告）」

オープンアクセスという概念の登場により、従来の学術雑誌中心の学術情報流通モデルでは主に著者または読者としてののみ関与してきた研究者個人にも、自らの問題として学術情報流通全体を捉えるという意識改革が迫られている。

もちろん、学術雑誌を中心とした学術情報流通のシステムには、長い歴史と伝統があり、それに基づく研究者コミュニティのルールは尊重されるべきものである。

しかし、従来の学術雑誌による学術情報流通のシステムを尊重しつつ、学術情報発信力の強化の観点とともに、社会への説明責任の観点からも、学術情報流通の新たな手段である機関リポジトリの取組みについては、研究機能を重視する大学、研究機関において、学協会との連携を図りつつ、積極的に進めるべきものであり、文部科学省は、国立情報学研究所が現在行っている機関リポジトリ構築・連携支援事業などを通じて、それらの取組みの支援を行うことが考えられる。この場合、紀要に関しては、大学等の機関リポジトリの構築とも併せ、電子化し無料公開とする選択肢も考えられる。

電子情報環境下における大学図書館機能  
に関する 研究“REFORM”成果発表会  
(研究代表者 土屋俊千葉大学附属図書館長)

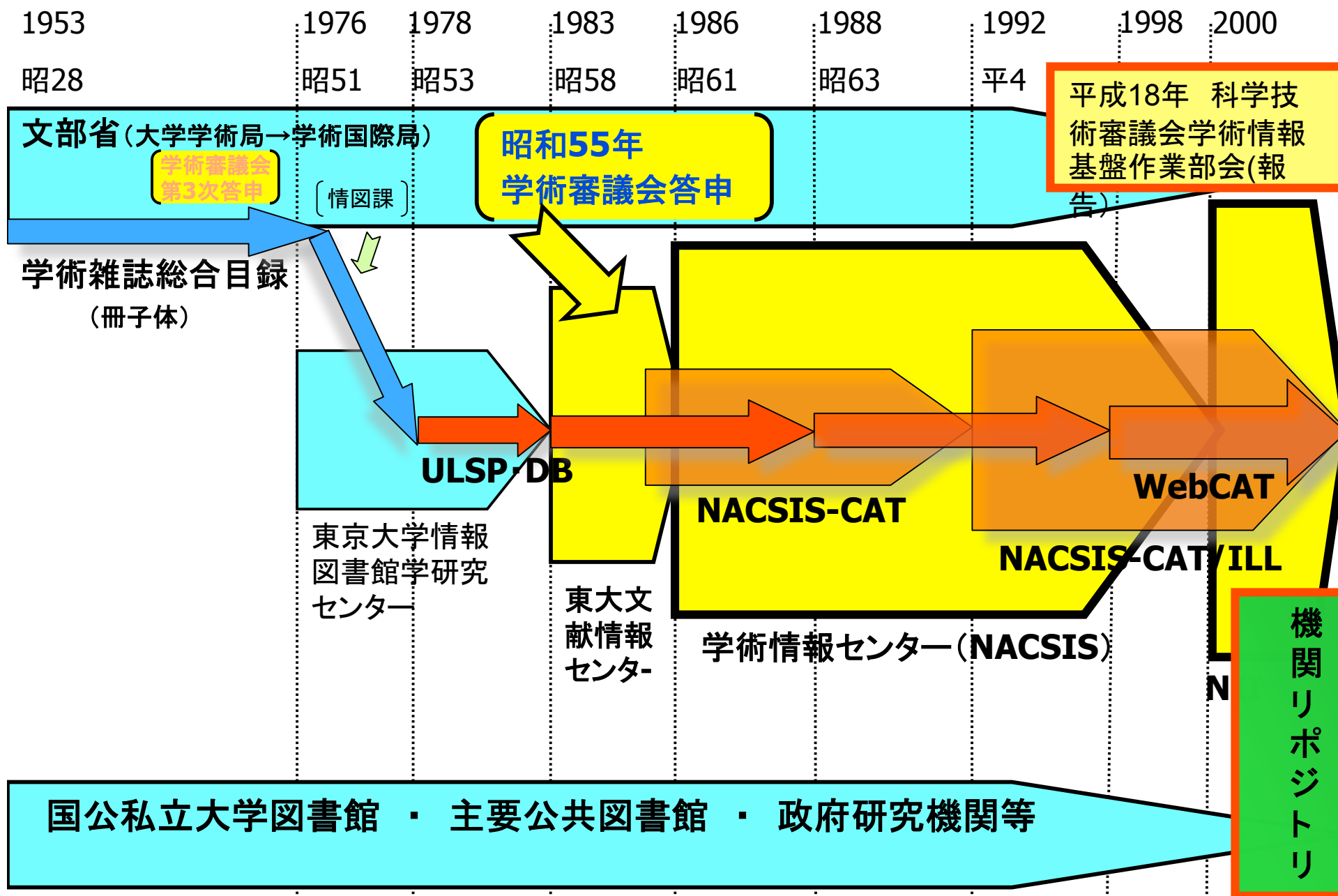
2007年3月9日(金)13:00ー

筑波大学大塚キャンパス

(地下鉄丸ノ内線茗荷谷駅徒歩五分)

詳しくは[reformホームページ](#)で

# 目録・所在情報形成から学術情報基盤・機関リポジトリへ



**No profit grows where  
is no pleasure taken.**

楽しくやらなければ上手いかないものだ

Shakespeare, William. *The Taming of the Shrew*.